

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2008年8月)

発表日2008年10月15日(水)

～貿易赤字を主因として経常収支も悪化～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 岩田 陽之助  
TEL : 03-5221-4525

		原数値 経常収支					季調値 経常収支					
		貿易・サービス収支				所得収支	貿易・サービス収支				所得収支	
		貿易収支	サービス収支				貿易収支	サービス収支				
		前年比	前年比	前年比	前年差	前年比	前期比	前期比	前期比	前期差	前期比	
07	5月	30.6	1.5	2.6	▲ 63	36.7	▲ 2.5	▲ 9.1	▲ 11.5	503	1.9	
	6月	48.0	73.9	56.3	9	▲ 2.6	▲ 6.2	▲ 10.7	▲ 8.9	25	▲ 3.4	
	7月	4.3	▲ 30.7	▲ 19.4	▲ 155	24.6	▲ 8.0	▲ 8.3	▲ 4.8	▲ 162	▲ 6.1	
	8月	42.1	316.2	180.1	▲ 435	7.3	17.1	59.6	48.4	▲ 253	▲ 6.8	
	9月	42.5	77.1	59.9	378	16.0	2.3	▲ 12.9	▲ 17.7	924	17.0	
	10月	44.2	97.6	50.4	385	21.8	10.4	17.4	14.7	49	2.7	
	11月	▲ 2.3	▲ 16.8	▲ 12.1	▲ 343	15.2	▲ 18.1	▲ 23.9	▲ 13.5	▲ 962	▲ 11.3	
	12月	▲ 10.8	▲ 33.0	▲ 18.2	▲ 1164	19.4	▲ 13.9	▲ 49.0	▲ 33.3	▲ 545	10.8	
	08	1月	1.8	赤字	▲ 36.9	▲ 34	7.2	13.8	93.6	49.7	448	▲ 9.2
		2月	4.8	▲ 9.2	▲ 7.0	▲ 168	14.3	▲ 24.2	▲ 72.0	▲ 54.8	▲ 96	5.6
		3月	▲ 11.7	▲ 33.3	▲ 29.3	▲ 788	6.6	40.3	148.5	64.0	346	12.5
		4月	▲ 29.4	▲ 59.1	▲ 41.9	1347	▲ 17.1	▲ 27.4	▲ 11.0	▲ 16.3	655	▲ 27.1
5月		▲ 6.8	16.2	▲ 0.1	687	▲ 12.5	31.2	44.2	27.5	438	20.4	
6月		▲ 68.9	▲ 99.8	▲ 81.5	▲ 440	25.1	▲ 36.7	▲ 114.9	▲ 85.4	▲ 1259	9.3	
7月		▲ 17.3	▲ 93.5	▲ 69.8	1133	9.6	22.5	▲ 302.9	182.8	1076	▲ 0.4	
8月		▲ 52.5	赤字	赤字	1004	▲ 5.1	▲ 41.9	赤字	赤字	366	▲ 11.1	

(出所)財務省「国際収支状況」

## ○8月の経常黒字額は前年比▲52.5%

8月の経常黒字額は前年比▲52.5%の9,888億円(原数値)とコンセンサス(同1兆1,907億円)を大きく下回る結果となった。貿易収支についてみると輸出は前年比+0.9%と増加したものの、輸入も原油をはじめとする原材料価格高騰に伴って前年比+20.2%と高い伸びが続いており、貿易収支は赤字へと転じた。所得収支についても、金利の低下などから債券利子の受取が前年比でマイナスとなり、前年比で悪化したため、経常黒字は6ヶ月連続での前年割れとなった。

## ○貿易赤字に加え、所得収支も黒字幅縮小

貿易収支は▲2360億円と過去最大の赤字額へと転じた。個別に見ると、輸出は前年比+0.9%と前月(同8.7%)から増加幅が縮小した。中東やロシアなど消費が旺盛な資源国向けの自動車、インフラ整備が盛んなアジアや新興国向けの鉱物性燃料、鉄鋼製品などが下支えとなり、全体としては増加基調を維持したものの、対米国が、輸送用機器を中心に前年比▲21.8%(前月同▲11.4%)と前年比でのマイナス幅が拡大した。一方、輸入は価格高騰の続く原粗油輸入の拡大を背景に前年比+20.2%(前月同+18.9%)と先月に次ぐ過去2番目の高水準で推移し、輸出の伸びを上回ったため、貿易収支は2年7ヶ月ぶりに赤字転換となった。

サービス収支は、2ヶ月連続で赤字幅が縮小した。「輸送」では、航空旅客運賃の支払い減少、海上貨物運賃の受取増加、「旅行」では、日本人旅行者による支払減少を受け赤字幅が縮小した。また、「その他サービス」は、その他営利業務の受取増加を受け、黒字幅が拡大した。

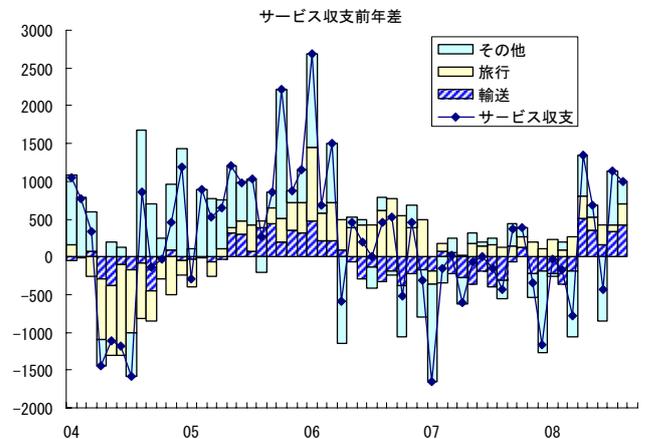
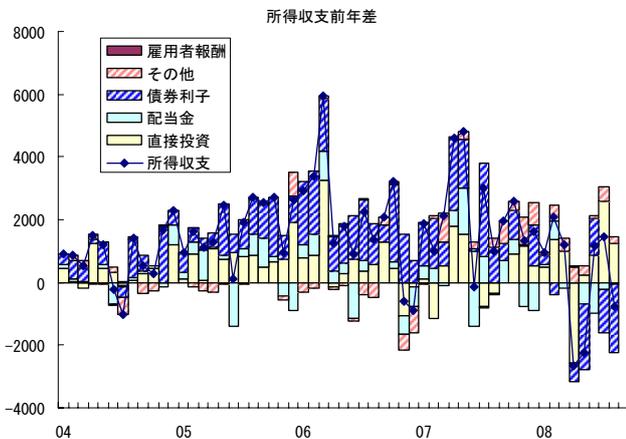
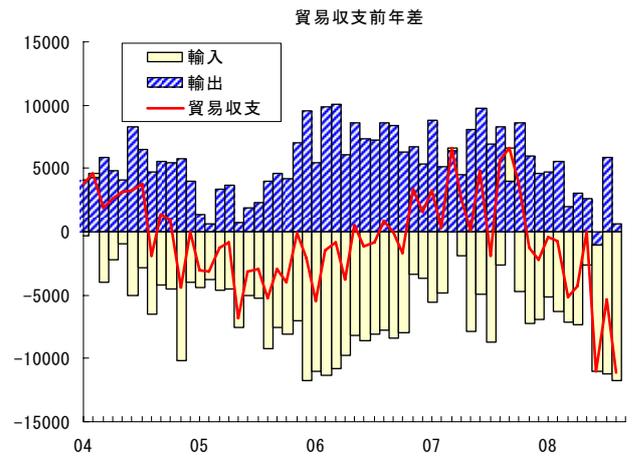
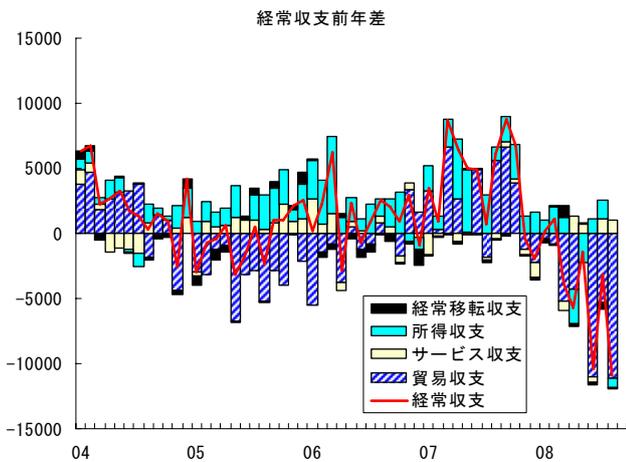
所得収支の黒字額は前年比▲5.1%と黒字幅が縮小した。直接投資からの再投資収益の受取は増加したもの

の、金利の低下や円高などによる債券利子の受取額の減少から証券投資の黒字幅は縮小し、全体としては黒字幅が縮小した。

### ○原油高騰の影響は徐々に緩和される見込みだが、輸出の減少が下押し

経常黒字の先行きを展望すると、まず、所得収支については、対外資産の増加が見込まれるものの、株安、円高、金利低下の傾向が続いており、先行き横ばいで推移するものと思われる。

貿易収支については、輸入金額の大幅な増加には歯止めがかかりそうだが、輸出の動向には注意が必要だ。輸入金額増加の主因となっている原油価格は7月をピークに下落に転じており、今後は前年対比でみた輸入金額への押し上げ寄与が徐々に剥落するため貿易赤字が続くことは避けられるだろう。もっとも、世界経済の悪化を背景として輸出の減少が予想されることから、貿易黒字の低水準での推移が予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。